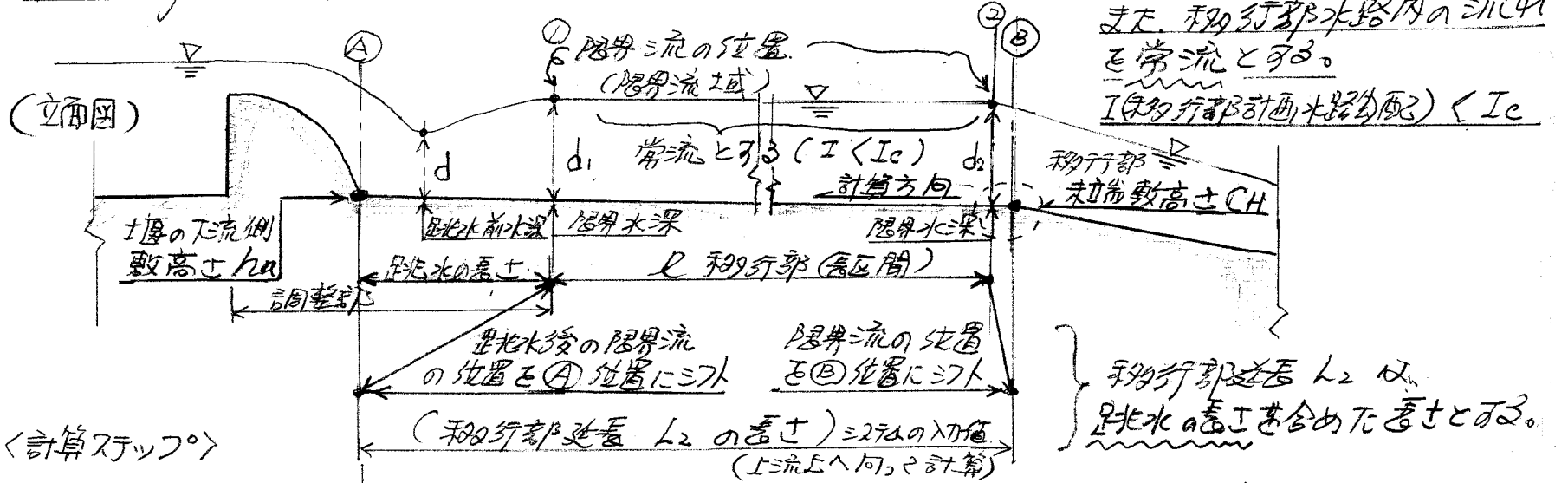


〈移り行部と限界勾配とした水面追跡計算 = 移り行部が長区間となる場合〉

計算の条件: 移り行部末端の限界水深から水面追跡により設計を行なう。



- ① 当初計算では、移り行部末端 (B) は、計算値 (限界勾配) により、敷高 $I(CH)$ が求まる。
- ② 移り行部は常流 ($I < I_c$) である場合は「足りない」ので、B点の敷高土 (CH) を手入力を変更する。
 一般的に、 $Fr < 1.0$ とすれば「高い」ので敷高土を上げ、 $CH \leq \text{入力値} \leq \text{堰下流側敷高土 } h_a$ 調整を行なう。

〈移り行水路幅について (限界勾配の選択)〉

